

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名： 川口 英雄

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6 月 30 日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ・ 外国籍の方々との接点が少ない
- ・ まちづくり委員会で誰もが安心・安全に暮らせるよう企画
- ・ 高校・中学に出向き地域のイベントに参加を促し交流したり、や地域の商業施設を借用して学習したり各国の文化を発表してできるだけたくさんの方々に知っていただく機会を企画実施している
- ・ 学生と交流を深め長い期間をかけ明日の担い手の一人になってくれることを期待したい。

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします）

- ・ 福井県には 208 館の公民館があります。福井市は 50 館あります。公民館を各地域の拠点として外国籍の方々が気軽に訪問できるような仕掛けができないでしょうか

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ・ よくできていると思います。

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名： キャサリン コーネリアス

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6月30日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きでお願いします。）

- 行政、法律相談だけでなく、心の相談（メンタルヘルス）もあるとよい
- 全市町にて無料または安い日本語レッスンがあるとよい。日本語の先生の支援も必要。
- 運転免許やドライビングスクールについての多言語情報提供
- 通勤に公共交通機関が欠かせないが便数が少なくて困る（運転士の確保も必要だから、運転士になりたい日本人・外国人の支援もするべき）
- 外国人の起業支援（スタートアップ）に関する情報がない（事業内容の審査が必要。他県では在留資格や商用目的で悪用する事例もある）
- 友だちづくりやネットワーキングのイベントが少ない
- 都市部と比較して給料が安いので高度人材は福井県から出てしまう
- 中途採用へのサポート（日本のルール、ビジネスマナー、同僚との付き合い等）

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きでお願いします）

- 様々な「世代」や「在留目的」にフォーカスした視点
- キャリアプラン

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きでお願いします。）

多文化共生に関するアンケート(外国人住民対象)に関する意見は下記の通り

●【2 滞日歴】設問の追加

福井県に住んで悪かったことは何ですか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。

- ☐交通機関が少ない ☐車がない ☐地域のイベントに参加する時間がない
- ☐母国の料理が恋しい ☐ショッピングモール・アミューズメント施設が少ない
- ☐僕機にいる知り合い・家族が恋しい ☐特になし

●【2 滞日歴】Q5 選択肢の追加 → 配偶者は福井県の人だから

●【3 日本語能力などについて】Q1 選択肢の追加 → 日本語(フリガナ必要なし)

●【4 仕事について】Q2 選択肢の追加 → 個人事業主・フリーランス・その他

●【6 住居について】設問の追加

あなたの住んでいる家の困っていることは何ですか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。

- ☐家賃が高い ☐面積が狭い ☐プライバシーがない ☐仕事先・お店が遠い
- ☐ビルが古い ☐ルームメイトが多い ☐特になし

●【7 交通について】設問の追加

日本のドライビングスクールに通ったことがありますか？

●【9 地震などの災害について】設問の追加

母国でも日本でも災害を経験したことはありますか？

●【8 子どもについて】Q11 選択肢の追加 → 子育てしていない

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名：佐藤 香子

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6 月 30 日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ・ 外国人住民が労働時間、交通手段、情報へのアクセスの壁により、生活に必要な日本語の学習ができていない可能性がある。
- ・ 嶺南地域の外国人住民（嶺南敦賀：736 人、敦賀以外：955 人）が適切に支援を受けられる体制の整備が必要である。嶺南地域の外国人住民がアクセスできる一番近い窓口が敦賀である。敦賀以南の外国人住民が簡単にアクセスできる窓口を設置し、気軽に足を運べる拠点の確保が課題である。
- ・ 活動拠点として、交通の便が良い場所の確保や、バス・タクシーの減免制度の導入が求められる。
- ・ 日本語ボランティアへの理解不足や日本語教師不足が課題である。
- ・ 行政におけるやさしい日本語の認知拡大と普及を進める必要がある。特に、警察、消防、病院、学校などの現場での意識改革や、防災無線やメール案内などの改善が求められる。
- ・ 立場の異なる地域住民が互いに関心を持ち積極的に関わりあえるような交流の促進方法や仕組みの検討。防災力の向上。
- ・ 外国人住民の直面する課題や意見が市の窓口に上がってこない現状を改善する必要がある。外国人住民が気軽に地域住民と話せる環境の整備が急務である。空白地域への地域日本語教室の設置。

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします）

【重要な視点】

1. 日本語教育の充実：外国人住民や企業実習生等に対し、必要な日本語学習の機会を提供すること。
2. やさしい日本語の普及：行政や緊急時の情報伝達において、やさしい日本語対応を進めること。
3. 地域交流の促進：外国人住民と地域住民の交流を深める場を増やすこと。
4. 支援体制の整備：外国人住民が気軽に相談できる窓口や支援拠点の設置とアクセスの向上。
5. ボランティアや人材の育成：日本語ボランティアや支援者の理解促進と人材確保。

【取り組むべき施策】

1. 外国人従業員の日本語学習機会の提供している企業への優遇措置の導入。
2. 日本語学習者の支援のためのオンライン養成講座や研修の開催頻度を増やす。
3. 行政窓口や公共施設でのやさしい日本語の普及と、多言語案内の強化。
4. 空白地域に地域日本語教室を設置し、アクセスしやすい拠点を整備する。
5. 交流イベントや文化体験会を開催し、住民間の理解と交流を促進する。
6. 交通の便が良い場所に支援拠点を設置し、電車・バス・タクシーの減免制度を導入する。
7. 外国人住民の意見や課題を把握できる仕組みを整備し、情報共有を促進する。

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

※事務局が関係機関に質問するにあたっての質問案

1. 外国人住民の日本語学習支援について、どのように考えますか？
2. 行政や公共施設での多言語対応（やさしい日本語）について、どの程度必要だと思いますか？
3. 住民同士の交流や文化理解を深めるために、どのような取り組みが効果的だと思いますか？
4. 災害時に外国人住民が情報を得るための多言語案内についてどう思いますか？

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名： 田谷徹

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6月30日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ①福井県型農業に合致する人材を育成していくうえで、自動車免許取得を支援しています。インドネシアと日本との交通ルールやそれに対する意識の違いから、今後大きな事故の発生も予想されます。交通ルールの講習や法律に関する試験問題の強化が必要と思われます。
- ②農業で働く人材を斡旋していますが、農業の現場は公共交通機関が脆弱で、移動困難者が多くいます。また農業という職柄、農繁期の固定休日が難しく、日本語教室に通えない方がたくさんいます。対面と併せてオンラインでも学習できるサービスが必要です。
- ③自転車の罰則が強化されました。自転車をよく使う技能実習生たちは、短期滞在の意識が強いためか、日本語でのコミュニケーションが苦手です。自転車の罰則に対する事前の説明をそれぞれの母国語で十分行う必要があります。
- ④医療機関によっては、症状が軽い風邪でも通訳者がいないと診察してもらえないケースがあります。症状が軽い場合に医療通訳を頼むのは、現実的ではないので、どの程度の日本語や症状ならば医療拒否されないのか明確なルール作りが必要です。実習生や特定技能などの短期滞在者も健康保険を払っているの、出来る限り医療が受けられるようルール作りを作り、医療機関への周知徹底が必要。

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします）

技能実習（育成就労）や特定技能のように短期で本県に住んでいる方の視点も取り込んだプランであればと思います。短期滞在者にとっての居心地の良い仕事環境の整備や労務、生活面での支援、言語学習など。

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ①外国人に対するアンケートで、労働環境や生活環境が充実しているかどうかの問いもあっていいのではないのでしょうか？
- ②3-（1）の言語にインドネシア語があってもよいと思います。

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名： 坪川 貞子 _____

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6月30日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ・ 高度外国人材等の外国人労働者においては職場定着後、地域社会との交流する機会が少なく、職場環境や医療、家族のことなどを相談する機関がない。
- ・ 技能実習（育成就労）や特定技能の外国人労働者については、特定技能2号への移行を踏まえ、N3レベルに至るまでの継続的な日本語習得・学習が必要であるが、その体制が整っていない。
- ・ 日系の在留者や家族滞在者の子どもについては、両親の日本語能力により、地域との交流が制限されている。

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします）

- ・ 外国人労働者に向けての雇用や職場環境に対する相談機関として、外国人材受入サポートセンターの利用を周知する。
- ・ 日本語能力が十分でない外国人においても、地域社会への参画が可能となるよう、地域における日本語教育を整えるとともに、ICT、AI等デジタル技術を活用した包括的な参画手段を検討する。
- ・ 外国人滞在者の子どもたちが将来の夢を描けるように、保育施設等における幼児期の日本語教育の体制を整備する。

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

「日本人向けアンケート」

- ・ 問3の「交流したくない」と回答した人へも追加で理由を聞いてみてはどうか。
自由記載欄にしても良いと思う。

「外国人向けアンケート」

- ・ 表記に漢字が多く難しすぎると思われるので、ふり仮名をつけるなどあっても良いのではないかな。
- ・ 問4に特別永住者があるので削除（アンケート対象には含めないとなっている）
- ・ 問10(2)では、行政サービスを受ける施設を知っていますかなど質問内容を具体的ににする。

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名：ハマザキ タカノ アドリアナ エイコ

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6月30日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ・ 言語壁：行政手続きや医療・教育現場での通訳・翻訳体制の整備
- ・ 教育分野：外国人児童生徒の日本語教育支援、学校での多文化理解促進
- ・ 医療・福祉分野：言語・文化の違いによる医療アクセスの課題、外国人高齢者支援

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします）

- ・ 教育の現場では、異文化を理解し尊重する教育が求められていますが、教師の研修不足やカリキュラムの見直しが課題です。
- ・ 医療の分野では、言語的および文化的な障壁（言語的および文化的な障壁）により、外国人患者が必要な医療サービスを受けにくい状況が見られます。
- ・ 治安や安全を担当する機関では、異文化に対する偏見や差別的な取り扱いを防ぎながら、すべての市民の安全を守る必要があります。
- ・ 現在、多くの外国人が日本に定住するようになっています。長い間、外国人には年金制度への加入が義務付けられておらず、企業側も社会保険や年金への加入手続きを行っていないケースが多く見られました。その結果、現在定年を迎える外国人の中には、年金の加入期間が短く、受給額が非常に少ない方も多く、日常生活に支障をきたしている状況です。

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

アンケートはよく作られていると思います。

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前意見照会

委員名： 真杉 順子

※策定委員会出席者に配付、HP 公開いたします。6 月 30 日（月）を目途にご回答ください。

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

- ・外国人住民に向けた犯罪被害防止情報の浸透
- ・犯罪グループに加担しないための規範意識の醸成
- ・警察活動に対する理解や警察への信頼感の醸成を図るための関係機関との連携・情報共有

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。（記述あるいは箇条書きをお願いします）

- ・みんなが暮らしやすい「安心共生社会」の実現のためには、防犯面の支援が必須であることから、安全で安心な暮らしを実感できるような各種体制を今以上に充実させる必要があると思われる。

「多文化共生に関するアンケート（案）」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。（記述あるいは箇条書きをお願いします。）

【外国人住民対象】

- ・「防犯」に関する内容を加えることが可能であれば、
 - 防犯情報をどこから得ているか
 - 問10(3)(5)に防犯に関する項目を追加についてご検討をお願いします。

第2次福井県多文化共生推進プラン策定委員会 事前照会意見

委員名: 吉田 啓介

福井県における多文化共生社会の実現に向けて、委員各位の専門分野あるいは全般的な課題をご記載ください。(記述あるいは箇条書き)

- ・ 日本語教育においては、外国人のニーズに合った日本語の学習機会(サービス)の提供が必要になっていると感じる。就労目的で来福した人は県内各地に散在しており、学習拠点への移動手段の面で課題がある。また、キャリアアップを目的とした日本語能力試験や専門資格の受験対策が求められていると聞く。さらに、幼少期に来日した子どもも、一部の地域(越前市)を除いて散在しており、在籍校の負担が大きいと聞いている。日本語の学習目的や生活環境などに寄り添った総合的な日本語教育の推進が求められる。
- ・ コミュニケーションの支援においては、学校や医療機関、行政窓口等で日本語が十分ではない方とのコミュニケーションが課題となっていると聞く。特に学校関係では、児童生徒以外に保護者とのコミュニケーションに困難があり、在籍校の先生方が工夫して対応している状況がある。来日後または転入後の新しい環境への適応場面において、意思の疎通が図れるかどうかでその後の生活の不安感も少なくなると思う。遠隔通訳サービスを知らないということもあるようなので、改めて支援メニュー等の周知をしっかりとしていくことが大切である。
- ・ 外国人材の受入れについて、受入れ前～来日～受入れ後のフォローアップが重要と考える。産業・分野別で対応が異なると聞いている。県として受入れの方針(ビジョン)を示しつつ、組織や部門を超えた横断的な施策の展開が必要である。受入れの時から、本人のキャリアプランやライフプランをしっかりと聞き取り、それをサポートしていくことが大事。

本プランの策定作業にあたって重要と考えられる視点や、取り組むべき施策についてご意見をご記載ください。(記述あるいは箇条書き)

- ・ 多文化共生の推進においては組織や部門を超えた連携が重要である。行政、企業、学校、地域を巻き込みながら一体的に施策に取り組む体制づくりが重要だと思う。策定委員会のように様々な分野の人たちが定期的に集まり、多文化共生についての課題や進捗状況を共有・議論する場があるとよい。
- ・ 外国人にとって、福井で過ごす数年はとても貴重な時間であるということを受入れる側は認識する必要がある。「福井で暮らしてよかった。福井で働いてよかった。」と思ってもらうにはどうしたらよいか考えていく必要がある。福井での暮らしや働くことのイメージを持ってもらうために、「福井で過ごすライフプランのモデル(労働者、子ども、国際結婚、移住等)」を示すことで、福井の独自性も出て、他県との差別化を図ることにもつながるので、福井の魅力発信になるのではないかと。
- ・ 「多文化共生推進プラン」の内容について関係者だけでなく、外国人を含む県民に広く浸透させることが大切。プランの見せ方や構成などデザイン性を求めることで発信力も増すと思う。

「多文化共生に関するアンケート(案)」について、ご意見ください。追加や追加すべき設問等。(記述あるいは箇条書きをお願いします。)